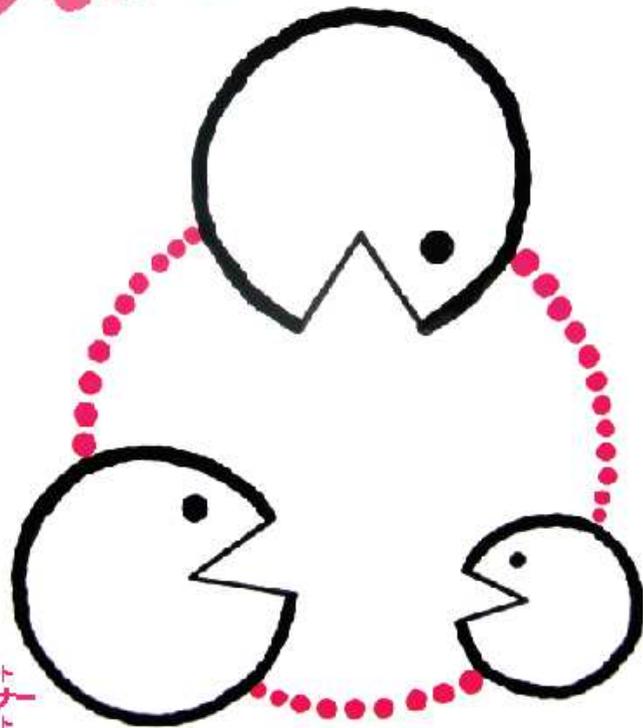


JOURNAL

男女平等推進センター
ジャーナル



Contents

- 誌上調査レポート
仕事応援セミナー
- 誌上調査レポート
男性学セミナー2009
- 特集
2010年度センター事業計画
- 事業紹介-DV防止啓発講座
・デートDV携帯物語・ユイとリュウヘイ編
・それはDVかもしれません
- 事業紹介-市風グループ調査研究報告会
大学生のファッション支出や消費行動にちがいはあるの？
- 相談窓口より
性同一性障害
- 男女平等政策課からのお知らせ
「市民の意見を聴く会」
- 支援団体紹介
シニアのすまいとくらし方研究会
- 調査情報ステーションコーナー
産む・育てる「元気に出産・子育てを応援」

<http://www.city.kurume-fukuoka.jp>

2010
vol.34

表紙イラスト：「時に離して」時に結して連作
別々の社会、人間関係が断絶し、孤独、友人、社会での地位や立
場など異なる価値観をもち、お互いを見つめ、見守る意味で人との繋が
りを表現しています。
ヤマト・ヨウコゼン（センター支援団体「クラブD」所属）

● 産む・育てる
平成22年3月

久留米市男女平等推進センター
〒830-0037
久留米市駅前野町1830-8
えーるピア久留米内
TEL. 0942-30-7800
FAX. 0942-30-7811
URL. <http://www.city.kurume-fukuoka.jp>
E-mail. dmjrc@city.kurume-fukuoka.jp

● 産む・育てる
平成22年3月

久留米市男女平等推進センター
〒830-0037
久留米市駅前野町1830-8
えーるピア久留米内
TEL. 0942-30-7800
FAX. 0942-30-7811
URL. <http://www.city.kurume-fukuoka.jp>
E-mail. dmjrc@city.kurume-fukuoka.jp

● 徒歩/自転車久留米駅から約10分 (約750m)
● バス/タクシー久留米駅から約5分
Jバス久留米駅前バス停2分
「駅前南口」下車、徒歩3分
● 駐車場 20台以上ございますが、お車の確保はなるべく公共交通機関をご利用ください。

産む・育てる

元気に出産、子育てを応援

安全なお産、安心なお産
刈谷園 桐波書店 2009年
ハイリスク妊娠、早産、帝王切開が追加、NICU（新生児集中治療室）はバンク寸前。かつてはあたりまえの出来事だったお産が、なぜこれほど困難になったのだろうか。出産医療ライターである著者が現場の声をレポート。

産む
竹内喜美恵と育児サークルあにたん有志
アニタ助産院 2009年
自分の方で産みたいと願った52人の母たちの記録。アニタ助産院で出産した人が、お産の感想や思い、楽しかったこと辛かったことをノートに綴り始めました。見知らぬ人たちをつないでそのノートが一つの本になりました。

**子育てを応援したい人のための
育児相談実習帳**
永瀬幸典 創元社 2009年
保育や子育て支援の仕事に携わる人、子育て後帯を見守る役割のための「相談に乗るための約束」をまとめた本です。何気ない日常会話の間に「相談」になったことに気づいたとき、そのときは「相談モード」にスイッチを入れて。

図書情報ステーション

仕事研修セミナー(全2回)12/9-11
ガールストーク・お仕事編

内容: 主婦における男女共同参画意識を高めるためのアド
バイザー講座

第1回 「職場でおもしろいこと、イヤなこと」

まずは、ゲスト(女性2人、90分程度)による対談
で、栄益士または監督としての仕事体験の発表。2
人とも自分の考えで進めていけるところと、仕事の面白
さを感じている。ただ、雇用の土台のところと不透明な
ものがある、ちょっと気になるという疑問も聞かれ
た。続いて参加者有志のグループ・トークでも、さまざま
な職場で仕事のルールが見えない現実が報告された。

第2回 「ちょっと困った経験ありませんか」

前回の経験から、3つのテーマを設定し、3組に分か
れて意見交換をした。

- ① 早卒や休職や退職など仕事のルールと雇用の現実が異なる中で、どう働くか
- ② 雇用の人権侵害を克服するために、どんなことができるか。(セクハラやパワハラを避けて)
- ③ 有用雇用でたっぷり働いたら仕事が終わらないと、次の仕事はどのような?

「わたしの就職作戦」 就職準備セミナー(11/18)



異業種めだら知っておきたい「仕事と雇用のルール」から
求職活動に欠かせない「履歴書や職務経歴書の書き方」ま
で、就職準備のための集中セミナーに、熱心に取り組
みました。質疑応答では、受講生が面接官になり他の人の
面接を觀察したのも、いい経験になったようです。

就職力アップセミナー(2/18)

① 「いろいろな働き方と雇用のルール」

就職の目的について改めて考え、自分の大事に
したい条件は何か、そのためにどんな仕事を
選ぶのかを、参加者どうして意見交換をしました。
また、雇用のルールを知った上で、現実の雇
用の条件にどう対応するかを考えてみよう、参
加者の就職活動の情報交換をしました。

② 「即実践!色のかでスキルアップ」

色彩心理の基本を学び、面接のときに着ていく
スーツやシャツの色など、就職活動にも活かせる
新しい色使いについて学びました。それまで
意識と持っていた色彩の感覚に刺激が与えられた
と、感想が多聞が聞かれました。



▼路上講座レポート▼



上:ゲストの2人(第1回目) 下:セミナー風景(第2回目)

*各課からは、多少の異業種や同じ業種の女性たちも参加、できる
ことを少しずつやってみようという前向きな意見や、仕事の経験を
大切にしたいと次につなげていきたいという希望を感じる報告などが
出された。

<アドバイザーから>

宮田美穂子(弁護士)

①労働基準法やパート労働や派遣労働に関する法律について概要
の紹介。法律の基準を突破するために、自分から一歩を踏み出し
て行くことも必要。また異業種のあっせんや個別労働問題を利用
するのも方法のひとつのアドバイスと、自分だけで悩まないよ
うことの重要性があった。

②雇用社会と雇用形態の急速な変化のなかで、新しい立派の可
能性も予測されるが、労働時間の短縮や働き方改革は一筋縄ではい
かないものがある。けれども、一人ひとりがそれぞれの職場で意
識的な取り組みや行動をしていくことをおさめなければならない。その
過程で専門家への相談や行政機関の活用も考えよう。そのためにも、
仕事や職場に所属した「困ったこと」を語り合える友人をも
つこと・その機会をうまく作ることも、力になるだろう等のコメ
ントがなされた。

第3回は、アドバイザーによる個別相談を実施

就職のためのパソコン技術講習会

一日PC3級エクセル検定対策(11/8~12/4)

就職をめざす女性を対象にした統計ソフト「エクセル」の集中講座
(7時間)を実施。20~50代の女性たちが基礎から応用・検定対
応の感覚に熱心に取り組みました。

インストラクターの解説や指示についていくのに苦労した人もいま
したが、受講生のエクセル技術は飛躍的
にアップ。検定合格へむけた勉強と
ともに、次の就職への期待を膨らませ
て終了しました。



男性学セミナー2009 2009.12/7

▼路上講座レポート▼

ワークライフバランス

~女性の働き方と生き方を考える・男性の家庭参画を目指して~
講師:小川 富之(近畿大学法学部教授)



はじめに

自分の専門は家庭法なので、今日のテーマ「ワ
ークライフバランス」を家庭の観点から見てい
きたい。このことを通じて、男性の働き方や生き方、
さらに男性の家庭参画や家庭の問題を、皆さんと
いっしょに考えていきたい。

結婚できないかもしれない

まず男性の未婚化、非婚化が急激に進んでいる。20代
男性の3人に1人は結婚しない、またはできないなど生涯
独身の人が増えている。原因は、パート、アルバイト、フ
リーターなどの非正規雇用の増加による経済的な基盤の不
安定さが影響しているといえる。

男性の家庭参画

育児休暇を取得した父親がづらい思いをするのは、子
どもを連れて公園に行っても、「妻に逃げられた夫」のよう
に見られて、母親たちの生活の中に入って行けず、取り戻
された感じになること、という話を聞いたことがある。
子育てを志す男性に向けられる視線は男性からのそれより
女性からのほうが厳しいということだ。男性の家庭参画につ
いては、女性ももっと真剣に考えていくべき問題といえる。

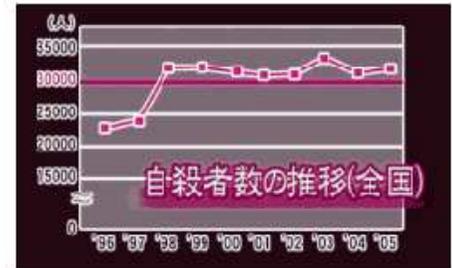
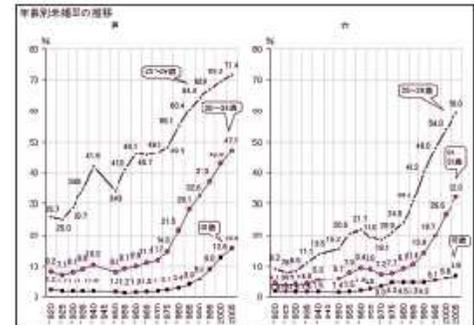
新しい男性社会

日本の自衛官数一8年連続3万人超。年齢別にみると、自衛官は50代が多い、そのうちの7割が男性だ。自衛官の国
際比較でも日本は10万人中24.1人と先進工業諸国中で最も高い。この現状に歯止めをかけようとして平成18年、「自
衛官採用基本法」ができ、国や地方公共団体をあけての取り組
みが始まった。この法律のポイント、自衛官採用の問題と
するのではなく、社会の問題としてきちんと取り組んでい
こうとするもの。

自衛の理由として失業率が増えているといわれている。
また、困った問題に直面したとき、相談できる人がいるかど
うかは、雇用だけでなく家庭でも重要だ。日本の男性は、家
庭で相談できる人が少ないことも、自衛が多い理由のひとつ
らしい。男性をとりまく社会の厳しさについて、再点検して
いくことが求められているといえよう。

まとめ

職場から仕事と家庭の適切な時間配分をすることや、仕事に集中するばかりでなく家庭の役割も担うことは男性にと
っても大事だ。妻が仕事に出たり文化活動・社会貢献活動に参加する時、夫は家庭で子どもと同じ目線で居る時間を持つこ
とができれば、雇用でも上司・同僚・部下の居るようになるだろう。また家庭生活も円滑に回り出すはずだ。おそ
らく、男性にとってのワークライフバランスは、踏み出しはじめたらその効果は予備以上のものがあると思う。仕事も好
転していくと思う。始めてみたら、その価値を聞かせていただければありがたい。



2010年度 センター事業計画

男女平等推進センターでは、男女共同参画社会の実現に向けて、今年度も様々な研修・イベントを企画・実施していきます。
新たな出会い、新しい発見。あなたにぴったりの講座やイベントが見つかるはず…。
センターの事業をとらえてみ出しませんか…。あらたなるあなたの第一歩！！

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事予定	・女性の参事執行総日 (4/10)		・男女共同参画週間 (6/23～29) ・女性参事執行総日	・男女共同参画週間 (7/20～26) ・女性参事執行総日				・久米米女性週間 (10/1～7) ・仕事と子育てを考える月	・女性に対する暴力をなくすキャンペーン (11/12～20) ・女性参事執行総日 (11/28)	・人権週間 (12/1～10) ・世界人権デー (12/10)		・女性の参事週間 (3/1～8) ・国際女性デー (3/8)
1. 女性(男性)学	<p>様々な女性(男性)が抱えている力を引き出し、展開するさまざまな問題を解決するためのヒントがいろいろ、多岐のなかでパワーアップすることを目指します！</p> <p>女性学セミナー・講演会</p> <p>政策参画セミナー</p> <p>子育て中の女性を応援する講座</p> <p>地域への出張講座</p> <p>男女のニューライフセミナー(男性学)</p>											
2. 生き方支援	<p>相談室に寄せられる相談内容から、女性たちのニーズをくみとって企画・実施し、市民グループへの支援や関係機関を対象とした研修も実施します。</p> <p>セクハラ防止セミナー</p> <p>女性の生き方を考える講座+グループ相談</p> <p>教育機関等への出張講座</p> <p>テーマ別グループ相談</p>											
3. 就業・チャレンジ支援	<p>女性の就業を支援し、経済的・社会的エンパワメントにつなげるための講座です。女性の再チャレンジを支援する機関とも連携して実施していきます。</p> <p>毎月開講講座</p> <p>若く女性のパワーアップセミナー</p> <p>若い女性のためのパソコン・仕事準備セミナー</p> <p>女性の起業支援セミナー</p> <p>検定対策・就職パソコン講座</p> <p>若い女性のためのパソコン・仕事準備セミナー</p> <p>雇用関係講座等・福岡県労務支援事務所との共同事業</p>											
4. 市民活動・交流支援	<p>市民グループ自らが企画・実施する講座を公認し、企画を共同するなど、男女共同参画をめざして活躍する市民グループをさまざまな形で支援します。</p> <p>市民グループ公認企画(前期)</p> <p>市民グループ公認企画(後期)</p> <p>市民グループ研究支援事業</p> <p>市民グループとの共同事業</p> <p>暴力の被害を受ける子どもへの支援スタッフ養成講座</p> <p>市民グループ公認企画(後期)</p> <p>市民グループとの共同事業</p>											
5. 女性と情報	<p>ジェンダーの視点でメディアを踏み解き、情報を知覚する力を身につけるために、調査情報ステーションを利用することから始めませんか？</p> <p>小さなお子さんを持って調査情報ステーションを利用していたらどうですか？</p> <p>フックタイム(毎月2週の全曜日・第3週の火曜日)</p> <p>「女性と競争を考える」内報のビデオ上映</p> <p>「女性に対する暴力をなくすキャンペーン」に関連した内容のビデオ上映</p> <p>ビデオ上映会</p>											
6. 記念・交流事業	<p>市民参事週間事業や、女性関係の観点での記念キャンペーンなど、交流を通じた市民参画やネットワークづくりを支援します。</p> <p>1996年10月1日、久米米市では男女平等を推進する契機として「久米米女性週間」を制定しました。この記念事業として「くるめフォーラム」を実行委員会方式で行っています。</p> <p>女性と競争を考える</p> <p>平和を願うからこそ、女性の目で「戦争」を考えてみる企画です。ピースフルくるめ共同事業</p> <p>女性に対する暴力をなくすキャンペーン</p> <p>11月12日から11月28日までの「女性に対する暴力をなくす週間」期間中に、暴力の被害に付けたるさまざまなキャンペーン事業を行います。</p> <p>くるめフォーラム2010(実行委員会)</p> <p>くるめフォーラム2010(実行委員会)</p> <p>くるめフォーラム2010(実行委員会)</p>											

事業紹介

出張授業 デートDV防止啓発講座「デートDV被害情報・ユイビレウヘイバク」



FIG. 12.21 A 久米学園高等学校にて

デートDV（女権相手からの暴力）問題の啓発プログラムを研究している「NOISHくるめ」と連携し、久米学園高校の生徒を対象に、デートDVについて考える授業を実施しました。寸劇を演じたわかりやすい内容で、多くの生徒は、携帯電話がDVを強化する手段になっているということに強い関心を示していました。

※NOISHくるめ（ノッシュくるめ/女性に対する暴力被害をテーマに、各府県を巡回している民間団体）



講師 北村 新代子
(久米学園女子大学学芸学部)

DVは犯罪をも含む重大な人権侵害であり、その被害者のほとんどが女性です。しかも、家庭内での日常生活の中で起こるため、被害者本人も周囲も気づかないうちに暴力がエスカレートし、深刻になりやすい傾向があります。そこで、DVについての理解と意識を深めてもらうために、女性を対象としたDV防止講演会を実施しました。講師の北村さんからは、DVの背景には固定的な性別役割分担意識、男女間の経済的格差、暴力を容認する社会風潮があること、DVの実態や被害者支援に関する情報をお話しいただきました。

男性と女性 大学生のファッション支出や消費行動にちがいはあるの？

男女平等推進センターでは、毎年、身近な女性（男性）問題をテーマにした調査研究を公報し、発信しています。今年度は、久米市内の大学生のグループが、大学生男女のファッション支出に関する「リアルな調査」に迫りました。性別による違いがどのようにあるのか、ないのか、報告会での発表から、要所を紹介します。

調査実施グループ
大学生のファッションに関する研究会
【久米学園女子大学経済学系大学ビジネスキャリア学科】

ファッションの支出や行動については、男性よりも女性の方が積極的で支出も高い、という一般的なイメージがあるようですが、研究会メンバー（8人）は、同僚の大学生として「そうかな」という疑問があったので、同世代についての調査を積極的に行いました。この調査を始めるにあたっては、おしゃべりに支出ができる「自由に使えるお金」は、どのように持っているのか、また、ファッション関連の消費行動として、「普段に着る服」は誰が・どこで・どのくらいの頻度で買うのか、美容室・理髪店の利用についてはどうかかなど、男女の大学生約500人にアンケートを依頼し388人から回答を分析し、まとめました。

その結果、キャンパスでの日常着であり、友達と遊びに出かけたりデートに行ったりするとき身につける「普段に着る服」は、お喋りの学生（男性87%、女性85%）が自分で買っていること、それを購入するのは、「久米米」よりも「天神・大倉」の店が突出して多いということがわ

市民グループ調査研究報告会 H22.3.13



りました。男女とも、同じように自分の服に関心をもち、積極的に行動しているとのデータが目立ちました。また、服を買うために店に行く頻度は、男性の2〜3ヶ月に1回に対して、女性は1ヵ月に1回というのが最も多く、また、そこで1回に使う金額は、平均すると男性約13,000円、女性約9,000円で、同様な男女差がうかがえるとのことでした。その他のファッション関連消費行動として、美容室・理髪店で利用するサービスやその選択理由、ファッション雑誌の購読状況等について、男女別にやや違うパターンが明らかになりました。しかし男女の学生の生活条件の違い（男性は1人暮らしが多いが、女性は自宅通学が多いなど）を考慮すると、アンケート結果を性別の違いだけで説明しきれないとの見解が述べられました。

限られた時間での調査、そして発表でしたが、大変興味深い報告でした。

相談室だより

久米市では男女共同参画社会づくりを進めるため、「男女共同参画行動計画」をまっくとして事業を進めています。現在の行動計画は平成22年度で終了するため、来年度、次期行動計画を策定します。そこで、市長は男女平等推進委員会に対し、次の行動計画の基本的方向や盛り込むべき事項等について質問を行いました。

委員会では市長の質問を受け、より多くの市民の意見を盛り込んだ内容にするため、1月に「市民の意見を聞く会」を開催して市民の意見や、委員会から次期行動計画をつくるための各申の考え方について説明があり、それについて参加者からは、「地域における男女共同参画の充実は大変、男女共同参画推進リーダー（女性・男性）を積極的に育成してほしい」、「幼児教育や学校教育に関わる人へ男女共同参画意識を浸透する」と、「労働者向けの労働条件などを改善する法律や、ワーク・ライフ・バランスについて企業へ出張講座をしてほしい」、「ロマンチックについては、家庭や学校での実践のさらなる実施を」と、多くの意見が出されました。

委員会では、「この会から出された意見など意見を踏まえて十分に検討し、よりよい答申を市長に提出したいと考えています」と締めくくられました。



久米市では男女共同参画社会づくりを進めるため、「男女共同参画行動計画」をまっくとして事業を進めています。現在の行動計画は平成22年度で終了するため、来年度、次期行動計画を策定します。そこで、市長は男女平等推進委員会に対し、次の行動計画の基本的方向や盛り込むべき事項等について質問を行いました。

委員会では市長の質問を受け、より多くの市民の意見を盛り込んだ内容にするため、1月に「市民の意見を聞く会」を開催して市民の意見や、委員会から次期行動計画をつくるための各申の考え方について説明があり、それについて参加者からは、「地域における男女共同参画の充実は大変、男女共同参画推進リーダー（女性・男性）を積極的に育成してほしい」、「幼児教育や学校教育に関わる人へ男女共同参画意識を浸透する」と、「労働者向けの労働条件などを改善する法律や、ワーク・ライフ・バランスについて企業へ出張講座をしてほしい」、「ロマンチックについては、家庭や学校での実践のさらなる実施を」と、多くの意見が出されました。

「市民の意見を聞く会」が開催されました

